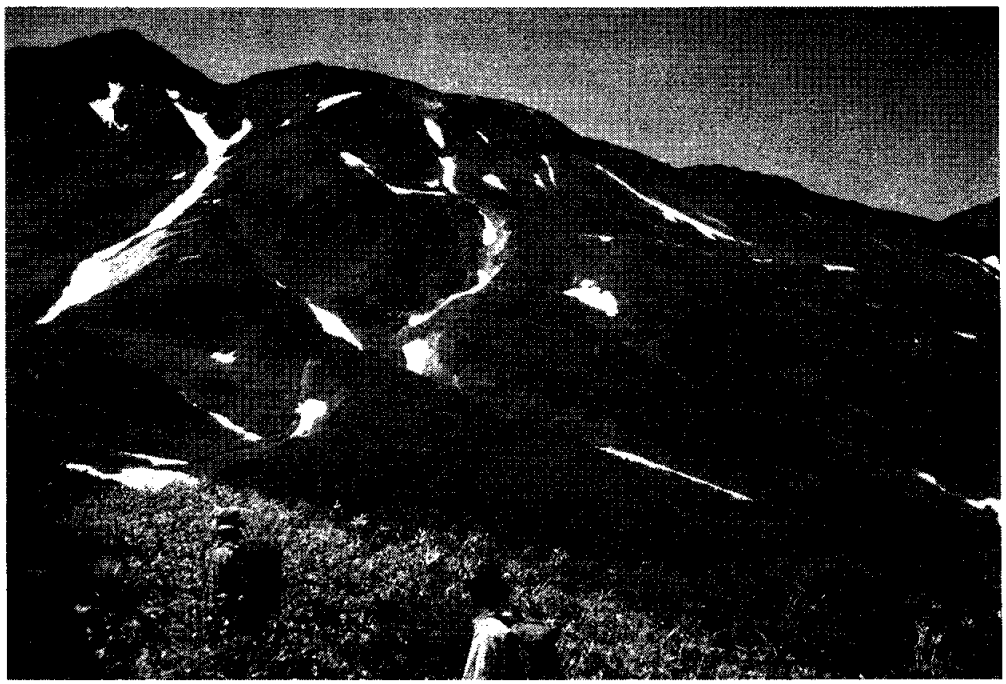
NC HOKKAIDO

Nature Conservation Society of Hokkaido

2000年 7 月 NO.110

…… CONTENTS ……

チョットひとこと……奥谷　浩一……2
国後のシマフクロウと自然環境
竹中　　健……3
2000年度通常総会要録……5
各地のニュース……8
連載・獣医さんのお話シリーズ(7)
新入会員紹介……10
活動日誌、要望書、寄付……11
お知らせコーナー……12



三峰山沢へ向かう富良野岳コース　　撮影・福地　郁子

社団法人 北海道自然保護協会

チョット＊ひとこと

小さな水たまり

野幌森林公園の入り口のひとつ、中央口の手前に小さな水たまりがある。国道12号線から折れて札幌学院大学と浅井学園大学との間を真っすぐに走る文教通りの終点である。この水たまりでは、今年もまたオタマジャクシが受難とたたかっている。

私は、毎朝の散歩で私の愛犬４匹とそのそばを通るのだが、今頃になるといつも彼らが心配になる。乾燥した好天の日が続くとこの水たまりが干上がり、彼らが大量に折り重なって死んでしまうからである。日ごとに確実に狭まってゆく水場にひしめきあい、泥のなかで必死になってもがいている姿を見て、ある日彼らを助けようと決心した。泥だらけになり、蚊に手足を刺されながら、できるだけたくさんすくいあげ、ある時は原始林の奥へ、ある時はとりあえずわが家の水槽に移す。やがてカエルになった彼らを袋に入れ、原始林の水場へと放してやる。そんなことが数年も続いた。

ある年のこと、今日は確実に彼らが死ぬと思われた日に、泥のなかに折り重なっている彼らを悪戦苦闘しながら袋に入れていると、「そこで何をしているんですか」という声がした。一人の主婦が怖い顔をして私をにらみつけている。私がいたずらをしていると思ったのである。訳を説明すると納得してくれたが、死にかけている彼らを心配してくれる味方がいたのである。こうして心やさしい人の輪が少しずつ広がり、「育て！オタマジャクシの会」ができ、近くの家から水道水を引き、その料金をカンパでまかなうことになった。昨年そのことが北海道新聞江別版に掲載された。

ここを管理しているのは道の森林公園事務所だが、すぐ近くにある給水施設から水をとるのを一度だけ許可した後は、何の対応もしようとしない。行政は小さな命にも冷たいのである。いわく、給水は自然生態系を破壊する、水道水は生物に悪い、ここに給水するとほかもそうしなくてはならなくなる、と。住民の反対を押し切ってこの近くの休養地を公園にしようとし、「自然誌ふれあい交流館」の建設を強行した行政は、オタマジャクシにも無関心である。近所に住む市民は、ここは舗装道路を延長し、地中深く排水溝をつくったために水枯れするようになったのだと証言する。自然生態系を破壊して来たのはやはり人間であり、われわれ人間が責任をとるべきであろう。

世界的に両生類の減少が問題となっている。オゾン層の破壊のためだといわれている。この小さな水たまりはサンショウウオも卵を産み、トゲウオもいたことがある貴重な場所なのである。この水たまりを水涸れしない元の水たまりへと戻し、子供たちがここで生物とふれあい、小さな命を大切にすることが市民のエートスとなる日はいつ来るのか。そのような社会では、一人ひとりの人間もまた尊重されるにちがいない。自然保護の運動も、例えばそんな身近なささやかなことから始めなければならないと思う。行政と市民と自然保護団体とが一体となった「エコ・コミュニティ」の創造はまだ遠いかなたにある。

奥谷浩一（おくや こういち）
（理事・江別市在住）

国後のシマフクロウと自然環境

シマフクロウ環境研究会　竹　中　　健

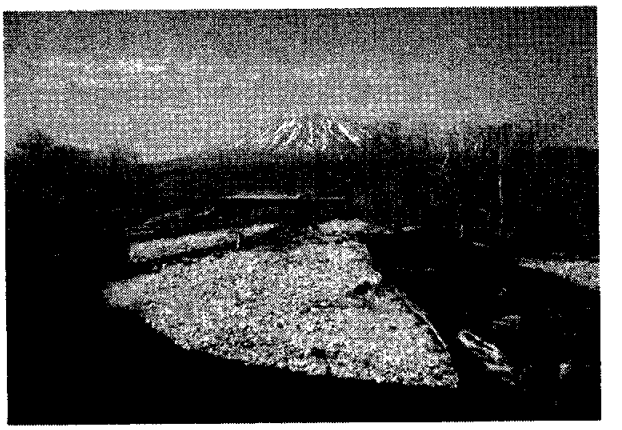
2000年の5月24日から31日まで北方四島ビザ無し研究交流団の一員として、国後島のシマフクロウの調査に参加しました。短期間の滞在でしたが現地の状況を簡単に報告します。

近年になって墓参団や研究交流団の断片的な情報が増えてきて、霧の中に包まれた国後島も徐々にその姿を現し始めています。国後の自然が明らかになるに従ってその質の高さが再認識されるようになりましたが、その一方で、多くの点について印象を修正しなければならないことも出てきています。

今回主として調査したのはクリルスキー自然保護区に含まれる島北部、爺々岳南西麓の広いすそ野をゆったりと流れる河川流域です。我々が現地に赴いたのは雪解け直後で、樹木は芽吹きの前、下草もフキが出始めという時期で、非常に歩きやすく見通しの良い時期でした。ロシアのレンジャーが長年調査を続けていることもあり、現地調査ではシマフクロウの鳴き交わしが頻繁に聞かれ、また羽毛等痕跡も多く見つかり、結果的に3河川でおそらく6つがいぐらいが生息していることを確認できました。シマフクロウの生息密度は現在の北海道より相当高いと思われます。しかしながら繁殖に成功していたのはわずかに1つがいでした。繁殖失敗の原因は不明ですが、調査中頻繁に目撃したクロテンによる卵の捕食がその一つとして考えられています。

また、生息地で魚類調査を実施したところ、魚類密度は北海道のシマフクロウ生息地でも最も高い知床の河川と同じくらいでした。魚類はオショロコマ、アメマス、ハナカジカが主体で、わずかにヤマメ(サクラマス)、スナヤツメが得られました。時期により、これら以外にウグイ、キュウリウオ、イトウ、カラフトマス、シロザケ、ベニザケ、ギンザケが大量に遡上してくると言います。多くのシマフクロウが生息しているだけあって非常に良好な餌環境でした。

いっぽう、森林環境は想像していたのと大きく違いました。当初は北海道の火山灰地に多く見られる、ミズナラ大径木に優占されるか、もしくは知床半島のようなミズナラ主体の針広混交林が広がっている風景をイメージしていました。ところが、島北部の調査流域は、河畔林を除いてほとんどが針葉樹（エゾマツ・アカエゾマツ・トドマツ）の純林に覆われています(いわゆるタイガ、一部ダケカンバ混じり)。河畔林の大径木はほぼ全てがオオバヤナギで、その多くに樹洞が空いており、今回確認した営巣木（途中放棄を含む）はダケカンバの1



本を除いて、いずれもオオバヤナギでした。しかしながら大木の総数は多くなく、さらに北海道で普通に見られるミズナラ、シナノキ、ハルニレ、ヤチダモなどの広葉樹はほとんど無いか全く見ることが出来ませんでした。また日本時代の開拓や森林伐採のために、河口周辺の平地や山腹斜面も森林のないエリアが目立ちました。

島の中央部や知床半島側はハリギリ、ハルニレ、ミズナラ、イタヤカエデが混ざってきて針広混交林となりますが、大径木はあまりみられません。島の南部は今回行くことが出来ませんでしたが、比較的根釧に似た多様な植生であるといいます。

広葉樹大木の天然樹洞で繁殖するシマフクロウにとっては、国後北部の営巣条件は北海道の自然林より不利な印象があり、繁殖状況も本年度は不良だったことはやや心配の種ですが、現実には相当高密度でシマフクロウが生息し、餌条件は申し分のないことから、こと自然保護区内のシマフクロウに関しては現在の所大きな問題はないように思います。

しかしながら、保護区以外の自然環境はシマフクロウに限らず楽観できない状況です。森林は貧弱で野生生物の密度も低くなります。また、ロシアの自然保護関係者の話では、近年の密漁、密猟、ゴミの不法投棄、汚水流入による河川汚濁などの環境悪化が深刻な問題になっています。さらに重要な問題とされているのが、実施に向けて進んでいる保護区隣接域（知床半島側）での金鉱開発です。実現すると、採掘や精錬に使用する水銀など汚染物質や土砂の流出の危険性がかなり高いと懸念されています（現在の状況では開発会社が環境保全に設備投資をする可能性はきわめて低いらしい)。ロシアの保護関係者からはこの金鉱開発を取りやめさせるために、何とか日本国内と国際世論を喚起して欲しいと懇願されています。この問題は早めに手を打たなければ、現在低迷気味の羅臼をはじめとする根室海峡の水産業がトドメを刺される可能性があります。

国後島はそれほど大きくない島（知床半島より少し大）なので、返還が実現した場合に開発の手が入ると20年を経ずして本道と同じ様な状況になるのは目に見えています。おそらく現在の日本の法律や社会システムでは、返還後の国後島の自然を守ることは困難でしょう。少なくとも、現在のクリルスキー自然保護区およびバッファーゾーンを、海域数kmを含めて原生自然環境保全地域に指定して立ち入りを制限することが必要ですが、返還された場合の様々な利権争いを考えると、そう簡単に指定できるわけがありません。国後の自然を維持するためには、特別な法律を作ることに加えて、我々社会の中で未だに方向性の定まらない、自然環境保全の必要性に対する認識を十分に確立しておくことが必要です。

最後に付け加えておきたいのですが、国後の自然は戦後放置されていたために保たれていたと考えるのは大きな誤りで、ロシアの研究者や自然保護担当者が労力を払って何十年も保護してきた結果である、という点は厳然たる事実として認識しておきたいものです。この維持されてきた素晴らしい自然をどのような形で我々が引き継ぎ、そして後世に残していくかというのが、物質的豊かさと引き替えに自然を搾取する数十年を選択してきた我々への大きな課題であると思います。

2000年度通常総会要録

日　時　2000年５月27日13時30分～15時20分
場　所　道民活動センター
（札幌市中央区北２西７）

俵会長挨拶

当協会が昨年まで長い時間をかけて取り組んできた千歳川放水路と士幌高原道路は、皆さんのお陰で私たちの望む方向に転換しました。今になって考えてみますと、この問題は20世紀から21世紀にかけての、時代の変革期を象徴する出来事だったのではないかと思います。

北海道の自然環境との関わりで20世紀を振り返ってみますと、残念ながらこの世紀は人間による自然破壊の時代といえます。その反省にたち、21世紀は、例えば国立公園や鳥獣保護区の大切な部分などは、むしろ19世紀の自然環境を取り戻すことを目指すのが良いのではないかとも思えます。

そうした中で、例えば日高山脈の自然はこれからどうあるべきか、北方四島の自然は、日本とロシアの難しい国際関係の中、これから先どうしたら良いのかというようなことが、今後の大きな課題となってくると思います。

ところで不景気が続いていることから団体会員が減少する状況にあり、協会運営が非常に厳しくなっています。そのため事務体制の見直しも含め、支出の削減を考えています。

その一方、会員を増やすための手段としてインターネットのホームページを立ち上げるとか、寄附金収入を増やすためのシステムを検討するなど、より良い運営を目指しています。

最後におわびを申し上げることがあります。昨年11月22日の夜に、事務所があらされ、現金の盗難事件が発生しました。今後はそのようなことが無いよう十分注意し、また改善してまいります。

その他いろいろな課題がありますが、皆さんから活発なご意見をいただきたいと思います。

第１号議案「1999年度事業報告及び収支決算」

〈事業報告の概要〉

［広報事業］(1)会誌『北海道の自然』第38号の発行　(2)会報「ＮＣ」106～109号の発行

［普及事業］自然観察会の開催（３回）　(2)夏休み自然観察記録コンクールの実施　(3)自然観察指導員講習会の開催（砂川市）　(4)自然保護講演会の開催（１回）　(5)自然保護学校の開校

［調査研究事業］(1)北方四島の自然保護に関しシンポジウムを開催　(2)日高横断道路計画に関し現状と問題点を調査　(3)その他、野生動物保護、高山植物盗掘防止、身近な自然の保護などにつき、現地調査や勉強会の実施

［自然保護運動］(1)日高横断道路の抜本的再評価を求める要望書の提出　(2)千歳川放水路・士幌高原道路の事後対策としての提言や要望を実施　(3)その他、身近な自然の保全のため、他団体と共同して問題点の整理、要望を実施

〈決算報告の特記事項〉

盗難被害のうち現金被害額268,818円は予備費から支出した。

〈監査報告〉

大西監事から、会計処理、事業などは適正におこなわれている旨報告された。

質　疑

質問、意見なし

◆第１号議案承認

第２号議案「2000年度事業計画及び収支予算」

〈事業計画の概要〉

［広報事業］(1)会誌『北海道の自然』第39号の発行　(2)会報「ＮＣ」の発行（年４回）　(3)ホームページの開設　(4)会員拡大

［普及事業］(1)自然観察会の開催（年５回程度）(2)自然保護学校の開催　(3)夏休み自然観察記録コンクールの実施　(4)自然観察指導員講習会の開催　(5)自然保護講演会の開催

［調査研究事業］(1)森林・河川・海岸に関する調査・研究・提言　(2)野生生物の調査・研究・提言（鉛、油汚染問題を含む）　(3)北方四島の自然保護　(4)その他

［自然保護運動］(1)身近な自然の保護　(2)農林水産業と自然保護　(3)日高横断道路など公共事業の見直し　(4)千歳川放水路と士幌高原道路の事後対策　(5)その他

〈収支予算の特記事項〉

支出を前年に比べ約160万円削減する。主な内訳は事務局を一人にすることで賃金を削減、また理事会参加支給旅費のうち手当をカット、会誌のページ数を減らすことで広報事業費を削減など。

質　疑

〈吉崎会員〉

私は日高が好きで、10数年前から日高横断道路の工事が行われているあたりに何回も行っているのですが、一週間くらい前に工事現場を見る機会がありました。

千石トンネルの手前の橋は10年以上前から出来ていましたが、トンネルはずっと手つかずでしたが、今回行ってみますと、トンネルが既にかなり奥まで掘られていました。

橋のたもとには大規模な飯場ができており、工事が本格化するような印象を強く持ち、今後の運動の展開を急ぐ必要があるという思いをもって帰ってきました。今後の運動の進め方について聞かせてください。

〈俵会長〉

私たちも昨年の秋に、千石トンネル予定地まで行って見てきました。その時はまだ手つかずでしたが、今年の2月に作業現場で人身事故の報道があり、初めて冬にもトンネル工事が行われていたことを知りました。

日高横断道路は北海道の道道なのですが、裾の部分を北海道が、また山の中心部は開発道路ということで、北海道開発局が工事をやっています。

北海道も北海道開発局も公共事業の見直し再評価制度を導入しており、この事業も再評価されたのですが、両者とも継続という結論が出され、工事も進行しているわけです。

いま私たちが問題にしているのは、再評価のやり方が不十分なのでやり直しをすべきだということで、北海道や開発局を再評価の土俵に上がらせ

決算報告（1999年4月1日から2000年3月31日まで）

一般会計　（円）

収入の部 勘定科目	決算額	支出の部 勘定科目	決算額
（基本財産運用収入）	（　3,445）	（管理費）	（6,185,625）
基本財産利息収入	3,445	賃　金	3,030,500
（引当預金運用収入）	（　1,440）	諸謝金	0
引当預金利息収入	1,440	退職金	0
（会費収入）	（6,759,000）	福利厚生費	81,335
個人会費収入	3,954,000	会議費	30,940
団体会費収入	2,805,000	旅費交通費	696,740
（一般事業収入）	（310,378）	通信運搬費	463,041
一般事業収入	310,378	消耗品費	280,003
（補助金収入）	（　0）	印刷製本費	97,257
地方公共団体補助金収入	0	燃料費	27,222
（助成金収入）	（　0）	光熱水料費	103,028
民間助成金収入	0	賃借料	883,512
（寄付金収入）	（223,468）	諸会費	95,500
寄付金収入	223,468	図書資料費	50,010
（雑収入）	（310,739）	支払手数料	3,415
受取利息	3,196	租税公課	93,376
雑収入	307,543	雑　費	249,746
（繰入金収入）	（　0）	（一般事業費）	（2,014,926）
繰入金収入	0	広報事業費	1,815,717
（引当預金取崩収入）	（　0）	普及事業費	199,209
退職給与引当預金取崩収入	0	（調査研究等事業費）	（143,910）
（前期繰越収支差額）	（2,024,294）	（引当預金支出）	（220,000）
		退職給与引当預金支出	220,000
		（繰入金支出）	（　0）
		繰入金支出	0
		（読本原価）	（26,000）
		（予備費）	（　0）
		支出合計（B）	8,590,461
収入合計（A）	9,632,764	次期繰越収支差額（C） （C）=（A）−（B）	1,042,303

ることに力を注いでいます。

しかし士幌高原道路と違い日高横断道路は現在進行中のため、時間がかかればそれだけ工事が進んでしまうわけです。しかもこの道路は北海道道でありながら、開発道路の部分を開発局がやっているため、北海道はこの部分についての発言権は無いと言っています。

来年からは省庁再編で北海道開発庁（開発局）が無くなり別の組織になりますので、その機会を利用して再度反対運動を盛り上げていくことも必要だろうと思いますが、今すぐ千石トンネルの工事をストップして審議しようというのは、非常に難しいと考えています。

◆第２号議案承認

第３号議案「理事の選任」

根岸選挙管理委員長から信任投票の結果が発表され、立候補者全員が信任された。

◆信任投票結果を承認

［新理事］

池田　啓介	江部　靖雄
大久保フヨ	大館　和広
奥谷　浩一	熊木　大仁
佐藤　　謙	佐藤　正秀
沢部　　勝	嶋田　久夫
高畑　　滋	伊達　佐重
俵　　浩三	寺島　一男
畠山　武道	塙　　敏博
稗田　一俊	福地　郁子
宗像　和彦	森田　正治

（敬称略）

第４号議案「監事の選任」

〈俵会長〉

監事について、大西　勲氏、山本行雄氏の両氏に引き続き監事をお願いしたい。

◆承　認

第５号議案「その他」

特に議案の提出、意見の発表などはなかったので、畠山副会長がホームページの補足説明を行った。

なお協会のホームページURLは次のとおり。

http://www.jade. dti.ne.jp/~nchokkai

◆以上で総会は終了した。

◇新しい会長、副会長、常任理事は次のとおり

会　　長	俵　　浩三	
副 会 長	佐藤　　謙	畠山　武道
常務理事	江部　靖雄	熊木　大仁
	高畑　　滋	伊達　佐重
	福地　郁子	

（敬称略）

予算計画（2000年４月１日から2001年３月31日まで）

一般会計　（円）

収入の部 勘定科目	予算額	支出の部 勘定科目	予算額
（基本財産運用収入）	（　3,360）	（管理費）	（5,172,000）
基本財産利息収入	3,360	賃　金	2,406,000
（引当預金運用収入）	（　1,128）	諸謝金	30,000
引当預金利息収入	1,128	退職金	0
（会費収入）	（6,250,000）	福利厚生費	79,000
個人会費収入	3,850,000	会議費	50,000
団体会費収入	2,400,000	旅費交通費	576,000
（一般事業収入）	（200,000）	通信運搬費	350,000
一般事業収入	200,000	消耗品費	270,000
（補助金収入）	（　0）	印刷製本費	80,000
地方公共団体補助金収入	0	燃料費	30,000
（助成金収入）	（　0）	光熱水料費	110,000
民間助成金収入	0	賃借料	900,000
（寄付金収入）	（100,000）	諸会費	86,000
寄付金収入	100,000	図書資料費	50,000
（雑収入）	（303,500）	支払手数料	10,000
受取利息	3,500	租税公課	120,000
雑収入	300,000	雑　費	25,000
（繰入金収入）	（　0）	（一般事業費）	（1,950,000）
繰入金収入	0	広報事業費	1,750,000
（引当預金取崩収入）	（　0）	普及事業費	200,000
退職給与引当預金取崩収入	0	（調査研究等事業費）	（200,000）
		（引当預金支出）	（230,000）
		退職給与引当預金支出	230,000
		（繰入金支出）	（　0）
		繰入金支出	0
		（予備費）	（348,291）
当期収入合計	6,857,988	当期支出合計	7,900,291
前期繰越収支差額	1,042,303		
収入合計	7,900,291		

西胆振広域ゴミ処理施設の建設候補地問題

――― 高崎　悠道
（西胆振の自然を守る会）

昨年２月22日室蘭市を中核とする西胆振廃棄物処理広域連合（当時：検討会議）は住民に何ら事前説明することなく、石川町34番地周辺をゴミ焼却施設の建設候補地として最終決定しました。この寝耳に水の理不尽な決定に周辺住民が猛反発したことは言うまでもありません。その後、住民説明会が数度に渡って開催されましたが、周辺住民は自分達の意向を取り上げようとしない室蘭市の不誠実な対応に不信感を募らせてきました。そして、石川町は翌平成12年４月14、15日に住民投票を実施し、建設反対が過半数を占めたことから町として正式に建設反対の方針を固め、建設地変更を申し入れました。これに対して、広域連合は「建設予定地変更の考えはない」と突っぱねています。室蘭市は当初から住民の賛同を得るため、様々な工作を行い、その一部が新聞に報道される不始末までしでかしています。現時点においても町内会に賛同者からなる建設協議特別委員会を設置し、ゴミ焼却施設の石川町建設の突破口にしようと目論んでいます。

石川町建設候補地はサケの遡上するチマイベツ、ペトトル両川が流れ、貴重な自然の河畔林、湿地が残されており、多種・多様な樹木、草木類、魚類、底生生物、昆虫類や鳥類が一体となって豊かな自然生態系を構成しています。絶滅危惧種、希少種も少なからず生息しています。例えば、植物ではサルメンエビネ、ヤマシャクヤク、フクジュソウ、エゾエノキ、トチノキなど、水生生物ではニホンザリガニ、エゾサンショウウオ、フクドジョウ、ウキゴリ、スナヤツメなど、鳥類ではハイタカ、チュウヒ、オオジシギ、ウミスズメなど、多くの貴重種が確認されています。今年３月には絶滅危惧種オオタカの営巣が確認されました。また、シマフクロウの生息の可能性も指摘されています。このような場所にゴミ焼却施設を建設することは許されるものではありません。

今年５月北海道自然保護協会からの「建設前にオオタカの生息調査を行うように」との申し入れに対して、広域連合は「生息調査をする」と回答していますが、厳密な調査がなされるのか、はなはだ疑問を感じざるを得ません。これに先立って我々市民団体が同じ要望をした時には、「調査の義務は生じない」として拒否しています。広域連合はその生活環境影響調査において自然環境はもとより、周辺の農業、５km程離れた所にある水道水源や浄水場に及ぼすゴミ焼却施設の影響について全く調査していません。ただただ唖然とするのみです。

我々西胆振の自然を守る会は石川町焼却施設建設問題を一人でも多くの方に知っていただき、そして多くの方の支援をいただいて石川町の貴重な自然を守るため建設地変更要求の運動を続けてまいる所存であります。

（室蘭市在住）

「函館山盗掘防止シンポジューム」から ―――― 鈴木　三郎

（南北海道盗掘防止ネットワーク代表）

先の5月21日(日)、「西部地区の風景を想う一日」行事の一環として、表記のシンポジュームが函館金森ホールで催された。午前に函館山で各散策路に分かれての開花ウォッチングを行い、引き続き午後にシンポジュームがもたれたが、パネラーには渡島支庁（環境生活課）、函館市（緑地推進課）、道有林管理センター等、関連行政機関からの参加も得られた。

シンポジュームは、挨拶（鈴木三郎）で函館地域での盗掘現況やその処理と問題点などが報告され、基調報告「函館山の植物の保護」（宗像和彦）では、スライドの映写により函館山の緑（植物たち）がもつ都市環境（自然や景観）や学術的面で貴重な存在であることを提示し、その認識に未だ欠ける場面が市行政や一般市民の行為にみられる（道路、施設の整備にみる不適切処置や盗掘など）として、行政と民間の連携協力によってその啓蒙と適切管理対策を早急に図るべきであることが提起された。

ついで各パネラーからの発言があり、行政からのパネラーは盗掘防止等に関るものとして、道は希少生物保護条例を作成中である、道有林管理では入山者に対する指導管理を重点目標としている、函館市では函館山の管理強化に向けて体制の整備中である、などの現在取組みつつある対策の説明があった。

その後に意見交流がおこなわれたが、その過程では、関係する各行政機関は各々の権限内でこの問題に前向きであると受止められ、今後の連携協力に弾みが見えた感があった。

盗掘防止に関っての行政と民間の連携では、函館は道内でも立ち遅れた地域と考えているが、今回のシンポジュームを契機にスムーズな連携が促進されることを期待したい。

（会員　函館市在住）

海道ニュース

河川整備の住民参加 ―――― 大館　和広

（理　事）

97年6月から河川法の一部が改正され河川整備事業に際しては地域住民の意見を聞かなければならなくなった。これを受けて各地で河川整備計画を作るために「流域懇談会」や「河川整備検討会」が開催されているようだ。

これら懇談会や検討会の委員をみると、学識者や地域代表者として河川工学の専門家や漁業者や行政の担当者の参加はあるが、河川生態系の学識者や地元の自然保護を行ってきた人達が委員にいないのはどうしてだろう。

昨年、私の住む網走管内でも佐呂間別川や芭露川の河川整備検討会が開催されたが、当初は河川生態系の学識者すら委員に入っていなかった。先頃行われた同管内の「湧別川流域懇談会」にも、河川生態系の学識者や地元の自然保護に取り組む人の参加があるのかは不明である（問い合わせ中）。

河川整備計画に際して地域住民の意見を聞くことは重要だ。しかし計画を進めるために既成事実を積み上げるだけで、何も変わらないのは困るのである。2年前に開発建設部が行った天塩川流域の全住民に対するアンケートは疑問の残るものだった。

当協会としては地域の問題にも積極的に関わっていきたいと考えているので、地域の会員からの情報の提供を望んでいます。現在は会員空白町村が半分以上あるので会員拡大を含めて協力をお願いします。

（紋別市在住）

連載・獣医さんのお話シリーズ (7)　秦田正治

有珠山噴火に対して思うこと

3月31日、20数年ぶりに有珠山が噴火し、多くの住民の方が避難された。3カ月余りたった今も洞爺湖温泉地区の方が避難生活をしいられている。あらためて、お見舞い申し上げます。私は被災したイヌやネコたちを救う作業を行なっている「北海道獣医師会有珠山動物救護センター」へ、時々、出掛けている。

施設は伊達市の中心部の建設資材置場を借用し、いくつかのプレハブハウスを設置し周囲をフェンスでおおい4月3日に開設。被災者から動物たちが次々と持ち込まれ、一時、収容が300頭近くにまで達したため、郊外に第2センターが設けられた。

獣医師は交代で作業に参加できるものの動物の世話をする一般ボランティアの参加は減少した。獣医学生やペット関連の専門学校生らの積極的な参加のほか、地元の方、年配の方、他府県からの方などが参加。せまいケージや運動不足などで動物たちには相当なストレスが加わり、参加のボランティアたちを悩ませた。ヒトの避難所と同じ状況か。

動物を連れて逃げる余裕がなかった、避難バスには乗せられなかった、すぐに帰れると思っていた等々で置いてきぼりをくった動物たち。災害の裏側には動物たちがいることを改めて痛感した。災害対策本部には動物のセクションがなく、動物救護の資金の大半も募金に頼っているのが実情で、日本は「動物福祉の発展途上国」と言えよう。

災害が発生すると動物の救護活動も始まるが、その立ち上げ、ボランティア活動、資金集めなどに大変関心を持っている。いつ水鳥の油汚染が発生するかもしれないし、実際ナホトカ号の時にも二次的に北海道でそうした経験をしている。今回の活動は飼育動物が対象だったが、動物たちが犠牲になることについては野生動物も変わりがなく、同じく「弱者」である。

（酪農大獣医学部客員助教授）

新会員紹介

99·10·5から00·7·1まで

【A会員】板垣　町子　岩田由美子　上野　博子
岡部美恵子　近藤　憲久　柴田　岳三
相馬　亮子　田岡　一穂　滝口　清美
竹吉　祐子　中尾　繁　中神由美子
中谷　吉彦　濱野由美子　松縄基美子
三浦　節子　毛利恵美子　山田　好子
横山加奈子　横山　禄男　五十嵐幸子
佐藤美祢子　佐藤　美雄　杉山　香苗
鈴木美基代　住山ヨリ子　孫田　敏
藤原　一松　宮本　修　山口　琢哉
五十嵐敏文　内山ヨウ子　遠田由美子
河村　健　櫛田　隆久　佐藤　清一
澤田久美子　高橋　和男　高橋　健
藤野　秀夫　本田　勝樹　湯田　卓
日当　良則　粟生　猛　坂井　和夫
高瀬　清隆　藤本　清　小島　晶子

【B会員】岩屋　幸人　杉山　竜也

【学生会員】藤原　千尋　吉沼　利晃

【団体会員】㈱　住　設

活動日誌

2000年2月

4日　会誌編集委員会
23日　エゾシカの猟法公聴会出席
26日　自然観察会（西岡水源地）
参加者　3名
28日　拡大常務理事会
28日　会誌・会報の発送

2000年3月

7日　総務会
9日　理事選挙管理委員会会合
16日　理事選挙管理委員会会合
17日　理事選挙関係文書発送
24日　理事改選の公示
25日　理事会

2000年4月

10日　総務会
12日　理事改選立候補届締切り
14日　立候補者確定（選挙管理委員会）
25日　第3回環境道民会議（総会）出席
26日　拡大常務理事会

2000年5月

14日　北海道自然保護連合代表者会議出席
15日　理事選挙投票（郵送分）締切り
18日　理事信任投票開票作業
（選挙管理委員会）
27日　理事会
27日　通常総会

ぜひ見てください。ホームページURL
http：//www. jade. dti. ne. jp
／nchokkai

寄贈図書の紹介

野生動物救護フォーラム'99「鳥類の鉛中毒」　黒沢　信道
タンチョウ　村本　輝夫
知床のほ乳類Ⅰ　知床博物館
北方山草第17号　高野　英二

要望書など

■2000年2月3日　北海道開発局長宛
日高横断道路（道道静内中札内線）事業の抜本的な再評価を求める要望書

■2000年2月3日　北海道知事宛
日高横断道路（道道静内中札内線）事業の抜本的な再評価を求める要望・質問書

■2000年2月15日　北海道知事宛
狩猟鳥獣（シカ）の猟法の制限に係る件に係る意見書

■2000年4月26日
北海道知事、北海道開発局長宛
日高横断道路（道道静内中札内線）の抜本的な再評価を求める要望・質問書（2回目）

■2000年4月27日　瀬棚町長宛
須築川下流域のカリバオウギの保護に関する要望書

■2000年5月2日
西いぶり廃棄物処理広域連合長宛
廃棄物処理施設建設計画にともなう「猛禽類」保全対策に関する要望書

寄付金

北海道花の名店会	50,000円
松川信子	9,000円
高橋英樹	10,800円
道央市民生協	50,000円
山本　信	10,000円
アカシア会	1,207円
匿名	5,000円
匿名	1,000円

第７回夏休み自然観察記録コンクールのご案内

当協会では例年、道内に在住する小学生を対象に「夏休み中に身の回りの自然をよく見て作文や絵に詳しくかいてみよう」をテーマに作品を募集しております。今年も、以下の要領で実施しますので、ふるって御応募下さい。

内　容

1）作文用紙は自由な規格
2）絵は画材、用紙、大きさは自由
3）９月18日（月）までに当協会必着
4）審査の結果
　金、銀、銅賞、佳作、学校賞とそれぞれ副賞が出されます。

※　詳しくは協会事務局にお問い合せください。

以上のお問い合せ・申し込みは
(社)北海道自然保護協会
札幌市中央区北３条西11丁目
加森ビル５・６Ｆ
TEL・FAX (011)251－5465まで
Ｅメール　nchokkai ＠ jade.dti.ne.jp

会費納入のお願い

会費納入については日頃ご協力をいただいておりますが、未納の方は至急納入下さいますようお願いいたします。

個人Ａ会員	4,000円
個人Ｂ会員	2,000円
（Ａ会員と同一世帯の会員）	
学生会員	2,000円
団体会員　１口	15,000円

〔会費納入方法〕
郵便振替口座　02710－7－4055
北海道銀行本店（普通）　101444
札幌銀行本店（普通）　418891

第11回滝野の自然に親しむ集い

主催　北海道自然観察指導員連絡協議会

滝野自然学園に宿泊し、ファミリーで自然に親しみましょう。川でのせせらぎウオッチング、森の中でのゲーム、自然観察ハイキングなど楽しいプログラムがいっぱい。カエルの大合唱にも出会えるかも。

日　時　８月12日(土)～13日(日)　１泊２日
場　所　滝野自然学園（札幌市南区滝野106）
対　象　小中学生とその保護者　定員100名
参加費　１人　2,600円（大人、子供同額）
申し込み　返信用封筒に切手を貼り、住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記の上、下記の事務局へ
〒060－0007 札幌市中央区北７条西５丁目
ストークマンション1103
自然ウオッチングセンター
☎011－736－3165
申し込み期間　７月１日～27日
お問い合せ　根岸（011－891－0556）又は上記事務局まで

「皆さん、いつまでもお元気で！」

土方　晃

協会の財政事情により、６月30日をもって事務局でのアルバイトをやめることになりました。

昭和63年12月から11年６ケ月、アルバイトとして会員の入退会の手続き、会費の納入、住所の変更等の確認や記録、そのほか会報や会誌の発送等の仕事を主にやってきました。

さらに去年から進めてきたパソコンを使っての会員のデータベース化も軌道に乗りました。

皆さんのお名前を見たり書いたりすることが私の仕事ですので、皆さんのお顔は存じあげませんが、お名前には格別な親しみを感じています。今後は、そのお名前を目にすることが無くなるかと思うと少しさみしいような気がします。長い間お世話になりました。

皆さん、いつまでもお元気で！

※ この紙は再生紙を使用しています。

NC7月号
No.110
二〇〇〇年七月二十五日発行
会費　個人Ａ会員四、〇〇〇円　個人Ｂ会員二、〇〇〇円　学生会員二、〇〇〇円　団体会員一口一五、〇〇〇円
郵便振替０２７１０・７・４０５５
社団法人北海道自然保護協会・俵　浩三
〒060－0003 札幌市中央区北三条西十一丁目加森ビル５六階
☎（０１１）２５１・５４６５
印刷　㈱広報社印刷